

いただきます

吉野小学校 三年 池田 充希

「いただきます」。わたしは、毎日ごはんを
食べる前に言います。

正直に言うと、わたしはお米があまり好き
ではありませんでした。朝ごはんを食べるの
がおそくて、いつもお母さんにおこられるの
で、よけいにお米がきらいでした。

わたしの家の前には、田んぼがあります。

おじいちゃんとおばあちゃんが
お米を作るの

が大変なので、昨年から友だちのお母さんが
作ってくれることになりました。冬のさむい
時から田んぼの土をたがやして、土にえいよ
うを作ってくれたり、田んぼのまわりの草を
かっつけてくれたりと、いねがないうちからてい
ねいに田んぼのお世話をしてくれていました。
その様子を見ていて、わたしはいねのなえが
うえられるのがとても楽しみでした。

いよいよ田んぼがはじまりました。大きな
きかいをつかって、小さなえがたくさんう

えられていく様子は、小さな命がたくさん生まれていくみたいで、キラキラして見えませんでした。

わたしは、毎日学校に行く時に田んぼのなえを見ていくことにしました。はじめはとても小さい赤ちゃんだったなえが、水や太陽の光をいっぱいあびて、どんどん大きくなっていききました。友だちのお母さんは、いねの様子をよく見にきて、いねを見守ってくれました。いねにはいろんなあたたかい物が、

つまっているような気がしました。

いよいよお米のしゅうかくになりました。

新米を一口食べたしゅん間、あたたかいごはんは、心もあたたかくなりました。お米が大切に作られてきた様子を思い出して、しあわせな気持ちになりました。

今、わたしはお米が少し好きです。小さなたくさん命と、それを見守ってくれた人への感謝の気持ちをこめて今日も言います。『いただきます。』